

青森県立弘前実業高等学校 藤崎校舎

「青森県の活性化～藤崎校舎からの提案～」



第1回高校生模擬議会参加 青森県立弘前実業高等学校藤崎校舎 平成29年2月9日(木)

1

青森県の活性化 ～藤崎校舎からの提案～

平成29年(2017年)2月9日(木)
高校生模擬議会資料
青森県立弘前実業高等学校藤崎校舎
1学年

1

青森県の活性化、私たち藤崎校舎からの提案をします。(1)

2

はじめに 「青森県の活性化」について 考える機会・・・ →今まであまり考えてこなかった。

平成28年12月20日
学校で「高校生模擬議会」実施

2

はじめに、青森県の活性化について考える機会はありませんでした。

平成28年12月20日、校舎で高校生模擬議会を実施しました。(2)

3

クラスを3班に分け、それぞれの 班毎に課題を設定、協議、資料 作成を行い、発表と質疑応答。



3

クラスを3班に分け、それぞれの班ごとに課題を設定、協議、資料作成を行いました。(3)

4

班毎の発表テーマ

		
A班 人口減少 少子化対策	B班 りんごの活用 農業の改善	C班 観光需要と 問題点提起


各班、濃い内容で改善策を決定

4

そのときの発表テーマはこちらになります。班ごとの発表テーマは、A班は「人口減少と少子化対策」、B班は「りんごの活用と農業の改善」、C班は「観光需要と問題点提起」です。私はB班に所属していました。B班では「りんごの活用と農業の改善」を提案しました。(4、5)

5

発表風景



A班 **B班** **C班**
慣れない質疑応答に苦戦も、
班毎の改善案を導き出せた。

5

6
模擬議会終了後、それぞれの発表テーマを精査し、藤崎校舎としての趣旨を考える。

→取り上げた問題点について、農業高校の特性を生かし、農業を通して改善できないか？

6

7
青森県立弘前実業高等学校
藤崎校舎からの提案

～青森県の活性化～
農業を通して、手がかりを見つけてみよう。

7

8
青森県は、本当に「地方」か？

東京まで
新幹線:約3時間
飛行機:約1時間
バス等:約8時間



→交通面では、大幅に改善されている
→人の流れはより多様に。

8

9
交通・物流の進化は進む

「モノ」の不足による人材流出ではなく
「魅力」「生活」の不安定による流出

→県内の魅力を再認識しなければ、
県外はもとより県内の人間に
わかってもらえない

9

10
青森県の現状

- 1) 農業の魅力があるか？
(この先の見通しはどうか)
- 2) 地元に住みたいが仕事がない
(人口減少・流出へつながる)
- 3) 観光資源を十分に生かしているか
(人の流れを考えてみる)

10


発表終了後それぞれの発表テーマをまとめ、取り上げた問題点について農業高校の特性を生かして農業を通じて改善できないかと考えてみました。(6)

青森県の活性化。大きな問題として、農業を通して手がかりを見付けたいと思います。(7)

まずは青森県というのは本当に地方でしょうか。東京まで新幹線で3時間、飛行機は1時間、バス等は8時間です。これらことから地方から都市部へのアクセスがより便利になりました。(8)

このことから人の流れが多くなり交通・物流の進化が進みます。「モノ」の不足による人材流出ではなく「魅力」「生活」の不安定による流出、これらを防がないといけないので青森県の現状をこう捉えました。

- 1 農業の魅力があるか？
 - 2 地元に住みたいが仕事がない
 - 3 観光資源を十分に生かしているか
- (9、10)

農業の魅力とは？  11

- ・自然とのふれ合い
- ・育てる楽しさ、難しさを肌で感じられる
- ・収穫の喜び etc・・・

藤崎校舎では、りんごを中心とした実習を行っている。

1つ目の農業の魅力とは。私たちは農業高校で農業を学び、これら3つのことを実習から学びました。

- ・自然とのふれ合い
- ・育てる楽しさ、難しさを肌で感じられる
- ・収穫の喜び

それらを通して農業には魅力があり楽しいということが発見できました。(11)

農業が抱える問題点 12

- ・後継者不足
- ・就農へのハードルの高さ
- ・収入への不安

→魅力ある産業として存続できるか？
数十年後の姿に不安。


続いては農業の抱える問題点です。後継者不足、就農へのハードルの高さ、収入への不安。これらのことから将来の農業はどうあるべきか考えました。(12)

農業を通した活性化の提案 13


「後継者不足解消に向けて」

- ・農業技術を継承する組織設立
- ・新規就農、Uターン就農のサポート充実

次は農業を通した活性化の提案です。まず1つ目の問題点である後継者不足について私たちはこう考えました。農業技術を継承する組織の設立、新規就農・Uターン就農者へのサポートが大切だと思います。(13)

「農業技術の継承」  14

知識・技能を学べる場所の設定

「就農者へのサポート」 

資金面以外でも、学習会や報告会を実施

農業技術の継承。農業人口の高齢化によって後継者不足に陥っています。農業をやりたい人のために就農者へのサポートを充実させ、資金面以外でも学習会や報告会などを実施したり、知識・技能を学べる施設を設置することなどがが必要です。(14)

農業を通した活性化の提案 15

「収入安定化に向けて」


- ・農繁期以外での収入確保を図る(剪定枝の活用や加工品開発)
- ・農業の組織化による月給制度への転換政策(最低時給確保)

次は収入安定化についてです。農業を行うに当たって一番大切なのはやはり収入です。ある程度の収入を確保しなければ安定した暮らしが実現できないと困るので、私たちは収入安定化のためにこう考えました。まず農繁期以外での収入の確保、組織化による月給制度の実現です。これらを実現することによって農業のイメージを払拭することができ、収入の安定化につながると考えました。(15、16)

16

➤ <農業＝不安定>のイメージを払拭したい！

・ある程度平均化した収入で、生活の安定化を！



16

17

➤ 農業を通じた活性化の提案

安定した農業収入の確保は・・・

→就農化促進、新規就農者呼び込み、農業安定化による定住促進
→人口流出への歯止めとなりうる可能性。

17

収入の安定化策として、就農化促進と新規就農者への門戸開放政策が必要だと思えます。それらによって県内における人口流出への歯止めにつながると思えます。

(17)

18

➤ なぜ、若者は地元を離れるのか？

地域に魅力を感じない、仕事がない、職についても給料が安い・・・
→農業で「メシが食える」ことを見せていかなくては、活性化にはつながらない！

18

なぜ若者は地元を離れるのか。魅力を感じない、仕事が無い、給料が安い。これらの理由が挙げられます。(18)

19

➤ 「新・農業特区」の新設

農地・住居の無償提供(条件付き)
→モデル地域を創設
(休耕地の無償提供、住居の提供)
費用面の問題、住むところの問題をサポートすることで、安定感が生まれる

19

そこで私たちは新農業特区の新設を提案します。休耕地の無償提供や技術面・経済面でのサポート、先ほど提案した農業特区を活用した栽培管理や収入源確保事業などを実施することにより、収入の安定化へとつなげられると思えます。(19)

20

➤ 安定収入の「農業」へ

農業自営者の養成
→栽培管理の情報共有、サポート、農閑期の収入源確保事業提案など

生活の安定化を促進する事業展開(現役農家の講師化)

20

生活の安定化を促進する事業展開として、現役農家と協力していくことが大切だと思います。生活の安定が少子化対策にもつながります。(20)